

ブレーキフルード交換要領(手動)

■対応車種:

エスティマハイブリッド AHR10W 系 2003/07～2006/05

エスティマハイブリッド AHR20W 系 2006/06～

プリウス NHW20 系 2003/09～

アルファードハイブリッド ATH10W 系 2003/07～

ハリアーハイブリッド MHU38W 系 2005/03～

クルーガーハイブリッド MHU28W 系 2005/03～

クラウンマジェスタ UZS186 系 2004/07～

GS UZS190 系、URS190 系 2005/07～

GS ハイブリッド GWS191 系 2006/03～

LS USF40 系 2006/09～

LS ハイブリッド UVF45 系、UVF46 系 2007/04～

ハイブリッド車および一部の標準車両に搭載されている ECB システムの手動でのブレーキフルード交換要領を記載しますので、参考にしてください。

※注意※

- ・下記手順を行うことで、診断機を使用せずにブレーキフルード交換をすることができます。下記手順はブレーキ関連の部品交換・脱着に伴うブレーキフルードエア抜き作業ではありませんので注意してください。
- ・G-scan の診断メニューにおいて『自己診断』を選択して故障コードが出力されないことを確認してください。
- ・ブレーキフルード交換作業により、ブレーキ系統などのダイアグノーシスコードを記憶することがあるので、必ずダイアグノーシスコードを点検および消去してください。
- ・作業中は必ずパーキングブレーキを効かせシフトレバーを P ポジションにシフトしてください。
- ・作業が完了するまでは絶対にすべてのドアを開けないでください。
- ・作業が完了するまでは絶対に ACC ON/IG ON にしないでください。
- ・必ず IG OFF にして全てのドアを閉じた状態で3分以上車両を放置してください。3分以上車両を放置しないでブレーキフルード交換作業を行うとダイアグノーシスコードを検出する場合があります。

- ・IGOFF で3分以上経過後もドア開閉またはブレーキペダルを踏むことで、ブレーキシステムが再起動するため、作業中はドアの開閉およびブレーキ操作を行わないでください。
- ・シフトレバーが P ポジションであることを確認してください。
- ・パーキングブレーキを効かせた状態であることを確認してください。
- ・すべてのドアが閉まっていることを確認してください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで行ってください。エアが完全に抜けていないと車両に悪影響を及ぼすだけでなく、ブレーキ回路に支障をきたし、正常なブレーキ操作ができなくなり、交通事故を引き起こす原因となります。

ブレーキフルードの交換要領

1. リザーバータンクキャップを準備してください。

リザーバータンクキャップ(トヨタ品番 47230-20140)を用意し、リザーバータンクキャップのブリーダーキャップを取りはずしてください。リザーバータンクキャップ中央の通気穴に小型ハンディポンプ(加圧ゲージ付き)を取り付けてください。

2. リザーバータンクからリザーバータンクキャップを取りはずしてください。

3. ブレーキフルードをリザーバータンクの MAX ラインまで補充してください。

※注意※

- ・ブレーキフルード交換作業時はブレーキフルードをリザーバータンクの MIN-MAX ラインの間を保つように補充しながら行ってください。万一、MIN 以下で作業を実施しブレーキアクチュエータ ASSY にエアが混入した場合はブレーキアクチュエータ ASSY を新品と交換する必要があるため、注意してください。
- ・ハンディポンプの圧力は 80kPa{0.8kgf/cm²} 以下で必ずリザーバータンクのキャップを手で押さえながら加圧を実施してください。

4. ブレーキフルード交換します。

小型ハンディポンプ(加圧ゲージ付き)を接続したリザーバータンクキャップをリザーバータンクに取り付けてください。ブレーキリザーバータンクのキャップを手で押さえながら、小型ハンディポンプ(加圧ゲージ付き)を使用して、リザーバータンク内の圧力を上げてください。

基準値: 80kPa [0.8kgf/cm²] 以下

※注意※

- ・リザーバータンクキャップの状態によっては、加圧圧力 80kPa [0.8kgf/cm²] でも飛ぶ恐れがあるため、加圧する場合は必ずリザーバータンクキャップで手を押さえてください。

ブリーダープラグキャップを取りはずし、ブリーダープラグにチューブを取り付してください。ブリーダープラグを緩めブレーキフルードを抜いてください。

※注意※

- ・リザーバータンク内のブレーキフルードが MIN レベル以下にならないようにフルードの補充を行ってください。
- ・IG OFF で3分以上経過後もドア開閉またはブレーキペダルを踏むことで、ブレーキシステムが再起動するため、作業中はドアの開閉およびブレーキ操作を行わないでください。

ブレーキフルードが入れ換わるまで繰り返し行ってください。ブレーキフルード交換後ブリーダープラグを規定トルクで締め付け、ブリーダープラグキャップを取り付けてください。

※注意※

- ・ブリーダープラグの締め付けトルク基準値につきましては、車両によって異なるため各車種別の修理書を参照してください。

同様にして、各ホイールのブレーキフルード交換を行ってください。

5. ブレーキフルード点検・調整してください。

ブレーキフルードをリザーバータンクの MAX ラインまで補充してください。シフトレバーが P ポジションにシフトされていることおよびパーキングブレーキを効かせた状態であることを確認し、IG ON にしてください。

IG ON にすることによりアクチュエータのポンプが作動し、リザーバータンク内のフルード液面が変化します。ブレーキフルードをリザーバータンクの MAX ラインまで補充してください。

※注意※

- ・スポイトなどを使用して液量を調整する場合、鉱物油、水、劣化したブレーキフルードを扱ったものは使用しないでください。シール部品やフルードの劣化を招き、フルード漏れ、効き不良の原因となります。

6. G-scan の診断メニューにおいて『自己診断』を選択して記憶された故障コードを消去してください。